

(公財)大学コンソーシアム京都		令和3年度経営計画 兼 経営努力結果	
基本事項			
所管局課	総合企画局総合政策室	本市出えん金	50,000 千円
基本財産/資本金	100,000 千円	本市出えん率	50.0 %
当年度の取組目標			
業務面	<p>目標1 「京都地域における大学間連携事業の推進」 単位互換事業における京都ならではの学びのフィールドの拡充や、インターンシップ事業における受け入れ先の業務改善及び活性化に資する新たな展開、更に、高大接続改革の具体化への対応のための加盟校支援や、リカレント教育の実施に向けた検討など、高等教育の環境変化を見据え、京都を拠点とした学びの環境充実に向けて、年次計画により事業点検と改善を図りながら計画を推進する。 指標1の令和3年度の目標値については、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、講座の受講者数を制限したため、下方修正する。</p> <p>目標2 「キャンパスプラザ京都の利用促進（講義室、演習室、会議室等の施設貸出）」 キャンパスプラザ京都は、同施設条例に規定のとおり、大学における学術研究の成果その他の知的資産を活用することにより豊かな地域社会の形成に資するため、大学相互の間及び大学と産業界、地域社会等との間の連携及び交流を促進する活動その他の活動の用に供するために設置されたものである。 今年度も引き続き、同施設の理念に沿って、単位互換事業や生涯学習事業（京カレッジ）で積極的に同施設を活用するとともに、指定管理者として、講義・演習・会議室等の適切な施設提供並びに保守管理に努める。</p>		
財務面	<p>目標 「より効果的な事業展開に努め、長期的に安定した財政運営を図る。」 大幅な収入増が見込めない状況に変化はないことから、引き続き事業の選択と集中、必要経費の見直しを行い、健全な財務運営に努める。</p>		
組織面	<p>目標 「研修の実施による職員の資質向上」 引き続き大学間連携組織として、キャンパスプラザ京都の利用者や、多様化する高等教育の環境やニーズに応えられるよう、計画的な職員研修の実施、研修補助制度の積極的な活用により、職員の資質向上を図る。</p>		
その他	<p>大学コンソーシアム京都では財団独自の中期計画を策定しており、令和元年度から令和5年度までの中期計画「第5ステージプラン」を、平成31年3月に策定した。本計画に掲げた施策や目標等を達成するため、年次計画「アクションプラン」を策定し、事業点検と改善を図りながら計画を推進する。</p>		
当年度の取組目標に対する意見			
所管局	<p>大学コンソーシアム京都は、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、一部事業を中止するなど、取組内容に一定の制限があったものの、大学間連携組織として、引き続き「単位互換事業」や「京都から発信する政策研究交流大会」などの基幹事業に取り組んだり、安定的な組織体制の構築に向けて研修等を実施した。また、コロナ禍においても学生が安心して学ぶ環境を維持・充実させるため、本市とともに、京都市大学のまち交流センターにWi-Fi環境が整備された学習スペースの設置やコロナ禍で不安を抱える学生を応援するためのメッセージの発信、修学に係る経済的負担軽減策の充実等の実施に係る国への要望など、本市が掲げる「大学のまち京都・学生のまち京都の推進」にも大きく寄与している。</p> <p>令和2年度に続き、令和3年度においても、研修の実施など安定的な組織体制の構築に向けた取組が求められる。加えて、今後は、平成30年度に策定した中期計画である第5ステージプラン（対象期間：令和元年度から5年間）にも示されているとおり、「①加盟校のニーズに応える事業運営」、「②大学と地域との連携推進」、「③交流・プラットフォーム機能の強化」、「④「大学のまち京都」のブランド化」、「⑤高等教育を取り巻く環境の変化に対応する先進的で独自性のある事業展開」の更なる推進や、コロナ禍においても、学生の不安や困難を解消し、安心・安全な学生生活の確保に向けた取組が求められる。</p>		

(公財)大学コンソーシアム京都	令和3年度経営計画 兼 経営努力結果
-----------------	-----------------------

当年度の取組目標に対する総括(※)

団体	令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響があったが、事業の実施手法（対面、ハイブリッド、オンライン）など創意工夫を図り、当財団の中期計画「第5ステージプラン」の方針に沿った事業展開が概ね実現できた。
所管局	<p>令和3年度決算では、令和2年度に続き、当期正味財産増減額は黒字となっており、収支の改善に向けた取組の成果が認められる。</p> <p>設立以来、本市の全大学、短期大学が加盟する大学間連携組織として、本市との協働事業である「大学地域連携創造・支援事業（学まちコラボ事業）」や「学まち連携大学促進事業」、オール京都で留学生の誘致及び受入体制整備などを行う「留学生スタディ京都ネットワーク」の事務局運営を行うなど、本市施策「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進に大きく寄与している。</p> <p>一方、大学を取り巻く状況が厳しくなる中で、今後の状況においては、本財団への期待はより多様化していくものと予想される。定款及び中期計画である第5ステージプラン（対象期間：令和元年度～5年間）において、「財団の果たす役割」に示されているとおり、「大学間連携事業の推進」「加盟校の教育の質向上の追求支援」「地域の発展と活性化への貢献」に資する取組を更に進めていくことが求められる。</p>

(1)業務に関する取組

目標1「京都地域における大学間連携事業の推進」

当年度目標	<p>単位互換事業における京都ならではの学びのフィールドの拡充や、インターンシップ事業における受け入れ先の業務改善及び活性化に資する新たな展開、更に、高大接続改革の具体化への対応のための加盟校支援や、リカレント教育の実施に向けた検討など、高等教育の環境変化を見据え、京都を拠点とした学びの環境充実に向けて、年次計画により事業点検と改善を図りながら計画を推進する。</p> <p>指標1の令和3年度の目標値については、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、講座の受講者数を制限したため、下方修正する。</p>
当年度結果(※)	<p>単位互換事業では、京都ならではの特色ある科目として「京都世界遺産PBL科目」「京都ミュージアムPBL科目」を合計9科目開講した。生涯学習事業では、リカレント教育プログラムの開発について検討をすすめ、「データサイエンス」「宇宙移住」をテーマとした2つの講座を令和4年度から開講することが決定した。インターンシップ事業では、コロナ禍に左右されない事業運営について検討し、事前・事後学習をオンラインに切り替えるとともに、一部の実習先ではオンラインによる実習を行うなど対応した。</p>

指標1	「京都学講座」の出願者数 (単位：人)							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
		509		523		388	208	496

指標2	インターンシップ事業の出願者数 (単位：人)							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
		286		279			200	362

(令和3年度単年度経営計画)

(公財)大学コンソーシアム京都	令和3年度経営計画 兼 経営努力結果
-----------------	-----------------------

目標2「キャンパスプラザ京都の利用促進(講義室、演習室、会議室等の施設貸出)」

当年度目標	<p>キャンパスプラザ京都は、同施設条例に規定のとおり、大学における学術研究の成果その他の知的資産を活用することにより豊かな地域社会の形成に資するため、大学相互の間及び大学と産業界、地域社会等との間の連携及び交流を促進する活動その他の活動の用に供するために設置されたものである。</p> <p>今年度も引き続き、同施設の理念に沿って、単位互換事業や生涯学習事業(京カレッジ)で積極的に同施設を活用するとともに、指定管理者として、講義・演習・会議室等の適切な施設提供並びに保守管理に努める。</p>
当年度結果 (※)	<p>指定管理者として貸室利用者に対するサービスの質の向上を心掛け、例年並みの予約状況を維持していたが、令和2年度と同様、新型コロナウイルス感染症の影響により閉館や時間短縮営業とする必要が生じた結果、使用料収入への影響が生じた。</p> <p>なお、2021年度は、経年劣化が顕著である空調設備の更新を行うなど、適正な維持管理に努めた。</p>

指標1	講義室、演習室、会議室等の施設利用率 (単位: %)							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
		68		65		56	70	39

(2)財務に関する取組

主要財務数値 (単位: 千円)							
	令和元年度		令和2年度		令和3年度		備考欄
	予算	実績	予算	実績	予算	実績(※)	
経常収益	406,127	391,073	390,382	383,838	383,944	378,606	
経常費用	405,852	382,601	401,542	377,994	380,084	372,263	
当期経常増減額	275	8,472	△ 11,160	5,843	3,860	6,342	
当期正味財産増減額	275	8,472	△ 11,160	5,843	3,860	6,330	
資産合計	-	509,613	-	518,421	-	523,541	
負債合計	-	39,871	-	42,835	-	41,625	
正味財産	-	469,742	-	475,586	-	481,916	

目標「より効果的な事業展開に努め、長期的に安定した財政運営を図る。」

当年度目標	<p>大幅な収入増が見込めない状況に変化はないことから、引き続き事業の選択と集中、必要経費の見直しを行い、健全な財務運営に努める。</p>
当年度結果 (※)	<p>前年度に引き続き、黒字決算を維持することができた。</p> <p>その一方で、依然としていまだ収束が見通せない新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の実施手法を変更したことや実施が困難となったことにより支出が抑えられ、公務3基準のうち遊休財産保有規定の基準を満たすことができなかった。今後、大学間連携組織の強みを活かした事業に取り組むとともに、2024年度からの時期中期計画の期間における新たな施策や事業の充実等により、改善に努める。</p>

指標	収入合計、支出合計 (上段: 収入、下段: 支出) (単位: 千円)							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	431,640	426,322	431,640	407,828	431,640	399,050	406,545	402,257
	419,964	435,710	419,964	405,140	419,964	419,513	388,236	395,458

(公財)大学コンソーシアム京都	令和3年度経営計画 兼 経営努力結果
-----------------	-----------------------

(3)組織に関する取組

目標「研修の実施による職員の資質向上」	
当年度目標	引き続き大学間連携組織として、キャンパスプラザ京都の利用者や、多様化する高等教育の環境やニーズに応えられるよう、計画的な職員研修の実施、研修補助制度の積極的な活用により、職員の資質向上を図る。
当年度結果 (※)	新たに文部科学省の職員を講師とした「高等教育の最新の動向」に係る研修を実施する等により、職員の能力向上及び一体感の情勢を図ることができた。また、研修補助制度を継続して実施することにより、有期雇用職員の契約期間満了後のキャリア形成を見据えたサポートにも注力した。

指標	研修実施回数 (単位：回)							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	8	11	8	11	8	14	8	14